

26年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	△ 13.6	31.8	40.9
	ヒノキ	△ 16.7	22.2	22.2
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	50.0	50.0
消費動向	スギ	18.2	13.6	13.6
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
在庫動向	スギ	△ 13.6	0.0	9.1
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	50.0	50.0

・スギ及びヒノキの原木入荷は、9月の減少が10月、11月は増加に、カラマツは9月、10月の横ばいから12月は減少に、トドマツは9月の横ばいから10月、11月はかなり増加に。

・スギの原木消費は、9月から3ヶ月連続しての増加、ヒノキは9月の減少が、10月の横ばいを経て再び減少へ、カラマツは9月、10月の横ばいが11月には大きな減少へ、トドマツは3ヶ月連続して減少。

・スギの在庫は、9月の減少の後11月は増加に、ヒノキは9月は減少、10月横ばいが11月は増加に、カラマツは9月、10月の横ばいから11月には減少に、トドマツは9月の横ばいが10月、11月には増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
スギ	22.7	22.7	13.6
ヒノキ	27.8	16.7	5.6
カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は9月から3ヶ月連続して強保合ないしやや強保合で推移、カラマツ及びトドマツは9月の弱含みから、10月、11月は横ばいに。

モニターからのコメント

・(原木荷動き)

- ・カラマツは、合板工場の買入れは弱い荷余り感はなく、集荷は注視していく必要がある。トドマツは国有林材で一部不落物件が出るなど、供給過剰感があり供給調整ないと価格は下落。消費は、カラマツはパレット・梱包が未だ好調であるが、ラミナー向けは500円の値下げとなった。集成材工場は実質不採算になり更なる値下げ要請がきている。トドマツは道内公共物件で指定されているものと仮設栈木向けで好調と聞くが、それ以外は低調で昨年と様子が違う。在庫は、カラマツは18cm以上の中目材が慢性的に不足、トドマツは羽柄材が停滞したことで買入れは控えているが原木在庫は今後増加傾向にある。
- ・スギ材入荷減（長雨天候不順）、ヒノキ伐採減、スギ材販売増のため消費増。
- ・ヒノキ入荷は季節的に例年通り増加を予想、秋需期待するも盛り上がりはないと思う、出材増加するので購入依頼も増加するか？
- ・天候不順でスギ、ヒノキとも丸太入荷少ない。
- ・スギ、ヒノキは8月は雨で出材が大幅に減少、9月以降は天候回復と季節要因で出材が回復する、ヒノキは相変わらず荷動き低調、スギはまだまし、8月末で在庫は大きく減少、これから少し積み増し増をした。
- ・スギ、ヒノキ総じて原木の出材が少ない、丸太の在庫が大幅に減少し、生産に影響が出始めた。
- ・スギ、ヒノキの入荷は長雨のため減少。
- ・スギは、9月はまだ天候の影響で入荷が減少したまま、天候の回復と同時に材は出だす見通し。
- ・スギ、ヒノキの入荷は、今月に入りやや増加だが基本的には少ない、スギやや増加、ヒノキ横ばい、基本的には製品は売れないので製材も減少気味、今月から仕入れ時期に入るのでやや在庫は増加する見込み。
- ・ヒノキ丸太、粗材在庫有り、原木の仕入れ減らず、製品在庫あり、販売の状況を見ながら消費は調整する、在庫は原木価格と販売の状況を見ながらコントロールする。
- ・スギの仕入れは、雨の影響で入荷悪く、他にバイオマス等のため少ない。
- ・気象条件も良好となり、秋需を見込んだ記念市などで原木市場へのスギ丸太の出材が増加。需要がつけば各工場とも残業等で生産を増やすのでは。

(原木価格)

- ・スギ、ヒノキは秋需のため毎年この時期は単価上昇。
- ・スギは時期的に上げ。
- ・ヒノキは出量が増加すればやや下落するか？
- ・スギ、ヒノキとも8月は相場が上昇、出材の増加につれて単価も落ち着く。
- ・スギ、ヒノキは出材少なく単価上昇。
- ・スギ、ヒノキは雨のため出材少なく、ない物高。
- ・スギ、ヒノキは、価格は基本的には横ばいだが、ヒノキ弱含み、スギは横ばい。
- ・ヒノキは、今時点では上昇ムード、中ごろから月末にかけて下がると予想。
- ・ある一定の高値のまままで特に変化なし。

26年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
生産動向	スギ	5.6	16.7	16.7
	ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
出荷動向	スギ	5.0	30.0	35.0
	ヒノキ	△ 18.8	6.3	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
在庫動向	スギ	15.0	△ 10.0	△ 15.0
	ヒノキ	12.5	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0

・スギ製材品の生産は、9月の横ばい後、10月、11月と連続して増加、ヒノキは9月、10月の減少から11月は横ばいに、カラマツは9月、10月の横ばいが11月には減少に。トドマツは3ヶ月連続して減少。

・スギの出荷は、9月の増加が、その増加幅を拡大して増加、ヒノキは9月の減少が10月、11月にはやや増加に、カラマツは9月、10月の横ばいから11月には大きく減少、トドマツは3ヶ月連続して大きく減少に。

・スギの製材品在庫は、9月増加の後、10月、11月は減少に、ヒノキは9月の増加の後10月、11月は横ばいに、カラマツは3ヶ月連続の横ばい、トドマツは3ヶ月連続の大きな減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	15.0	15.0
	柱角 KD12×3	△ 5.0	10.0	5.0
	通し柱 12×6	△ 6.3	12.5	6.3
	桁角	0.0	21.4	12.5
	母屋角	△ 6.3	12.5	6.3
	タルキ	△ 7.1	7.1	7.1
	間柱	△ 5.6	11.1	5.6
	ヌキ	△ 7.1	8.3	7.1
	平割	△ 7.1	7.1	7.1
	ラミナ	0.0	12.5	12.5
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 5.6	5.6	11.1
	柱角 KD12×3	△ 5.6	0.0	5.6
	土台角 10.5×4	5.6	5.6	5.6
	土台角 12×4	0.0	6.3	6.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
ラミナ	0.0	0.0	0.0	
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	△ 100.0	0.0	
トドマツサンギ	—	—	—	

・スギ柱角（10.5cm）、桁角及びラミナは、9月の保合の後10月、11月とやや強保合に、柱角（12.5cm）、通し柱、母屋角、タルキ、間柱、ヌキ及び平割は9月の減少の後、10月、11月はやや強保合に。

・ヒノキの柱角は9月のやや弱保合が10月、11月には保合ないしやや強保合に、土台角は総じてやや強保合に、通し柱及びラミナは横ばいで推移。

・カラマツ梱包仕組み板は保合で推移、ラミナは9月の横ばいが10月の弱含みを経て11月には再び横ばいに。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・スギ材好調、ヒノキ材販売不振、ヒノキは在庫増。
- ・スギ製材品売れ行き悪く、在庫増。
- ・ヒノキ製材品の生産出荷は、需要が大きく増加する気配が感じられない、生産分の出荷なので在庫は大きな変化はない。
- ・スギ、ヒノキ製材品は、販売弱く、原木入荷も少ないため生産、出荷共に少ない。
- ・スギ、ヒノキは売れ行き低調で生産は遊ばない程度に落としていた。天候安定、売行回復とともに生産増やしたい、生産落としているが、それ以上に出荷が低調、今月からスギ増えていくと思う、製品・半製品とも在庫は一杯、これから減る見込み。
- ・スギ、ヒノキは、秋需に期待して生産落とさず推移、川下の荷動きは依然として回復傾向見られない、製品荷動きは悪く、在庫は若干増加するも原木在庫が少ないため売り急がないようにしている。
- ・スギ、ヒノキの出荷は、長雨のため現場工事進まず、停滞気味。
- ・ヒノキの生産、出荷は、9月は8月より増える見込み、10月、11月は9月並で推移を予想。
- ・スギ製材品は需要がつけば各工場とも残業等で生産を増やすのでは。本格的な秋需ではないが注文状況はこの時期ではまずまず。在庫はあまり変化せず。

(製材品出荷価格動向)

- ・ヒノキ土台は引合減で不振、スギ桁、母屋材は安定販売、ヒノキラミナは安定価格。
- ・スギ製材品は上げる要素少ない。
- ・ヒノキは、上昇は考えられないので下落しないよう調整する。
- ・スギ、ヒノキとも柱は8月に下がったままの横ばい、その他は売れ行きにかかわらず単価は横ばい。
- ・スギ、ヒノキは製品の荷動き悪いが原木単価上昇に伴い価格は横ばい、値上げが受け入れられていない。
- ・ヒノキの価格が下がらないようコントロールする。
- ・スギ製材品は流通は下落ムードだが、メーカー側は原木状況考えるととても「下げ」の考えはないのでは。

26年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	100.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ原木の仕入れは、9月の増加から10月、11月は横ばいに、NZラジアータ原木は3ヶ月連続の横ばい。

・米マツ原木の消費は、9月の増加が10月、11月は横ばいに、NZラジアータ原木は9月の横ばいが10月、11月は連続して増加に。

・米マツ原木の在庫は3ヶ月連続しての横ばい、NZラジアータ原木は9月、10月の増加が11月には横ばいに。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
米マツ丸太	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	△ 50.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ原木の購入価格は、3ヶ月連続して強含み。

・NZラジアータ原木は9月、10月の弱含みが11月には保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータは秋需に向け受注量増加気味、在庫は増産により多少減少。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータは現地FOB価格下降だが、次第に円安傾向、元に戻る。

26年9月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
生産動向	米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	100.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は、9月の大きな増加の後、10月、11月は横ばいに、NZラジアータ製材品は9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・米マツ及びNZラジアータ製材品の出荷は、9月から増加基調で推移。

・米マツ製材品の在庫は、9月の増加から10月、11月は横ばいに、NZラジアータ製材品は9月から3ヶ月連続して横ばいで推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
米マツ平角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ小割		△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格は、9月、10月の弱含みないし保合から11月は保合に。

・NZ梱包材、土木用材は3ヶ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品の生産、出荷は増加の見込み、在庫は変わらない。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は、価格多少弱いと思ったが、円安により保合となると予想。